

## 地域全体がキャンパス

### 若者の視点でまちづくり

#### にぎわいを再び

鳥取大学地域学部で新入生を対象とした講演が行われました。演題は「学生の立場からの地域連携活動」。講師は同学を卒業後、大阪市立大学の大学院で文化芸術を活かした地域再生や都市政策を学ぶ辻堅太郎さんです。

辻さんは、旧気高町出身の26才。先日もゴールデンウィークに、昭和初期に建築され、鳥取大震災や大火を乗り越えたまちの生き証人で、国の登録有形文化財にも指定された五臓圓ビルを活用し、「ビルを



辻 堅太郎 さん  
Kentaro Tsuji

アートスペースに」をかけ声にイベントを行いました。現代アートの展示やヴァイオリンコンサートなどに約300名の来場者が訪れ、ビルはかつてのにぎわいを取り戻しました。

#### 地域は宝の山

そして、辻さんは市町村合併で不要となった各総合支所にある旧議場を活用した映画上映会「とっとり議場シネマ」を平成19年から毎年開催しています。これは合併以降、「忘れられた存在」として有効活用されることがなかった旧議

場に光を当てて、映画を楽しむ場として再生させるとともに市民が交流出来る場としても活用しようというものです。旧鹿野町議場を会場としたこの上映会では、カンヌ国際映画祭出品作品など普段なかなかスクリーンで見ることのできない上質な映画を2本上映しました。平成19年の開催時には初年度にも関わらず、座席は満席。議員控室にはカフェを設け、観客や企画を運営するスタッフなどが交流できる工夫もなされました。

かつては敷居が高く、近寄りがたかった議場が、身近に



感じられたのではないでしょう。観客のなかには「こういう機会をもっと増やしてほしい」との声もあり、継続して活動していく上での後押しになったそうです。

#### 先生は地域住民

このほか、本市の中心市街地活性化に向けて、国のモデル調査事業を早稲田大学やNPOらと取り組んだ「鳥取まちなか往來復活コラボ」や、大学近くの茶屋二区町内会で行った「えんがわ活動」など学生と地域住民が連携した地域課題解決への取り組みを通

《6月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷今年度の主な事業
- ▷開幕！市民体育祭
- ▷初夏を告げる！雨滝滝開き祭
- ▷食育らくらくクッキング(河原)



静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週日・月・水・木



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット  
.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

福部のラッキョウ、神戸のびわなど、市内の特産品の収穫や出荷の様子をお伝えします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

小学校の新一年生の学校生活の様子をご紹介します「こんにちは一年生」がスタートします。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介いたします。

地デジの準備をお願いします！

アナログ放送は平成23年7月24日に終了し、地上デジタル放送に完全移行します。視聴方法など詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばびよんびよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。  
番組の放送時間は、ホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください。  
<http://www.inabapyonpyon.net>



イベント後の五臓圓ビルでつぎの企画を仲間と語らう

じ、活動の場や人脈を広げていきました。今ではこうした地域住民とのつながりから学んだことが大きな財産になっているのだそうです。

平成20年度には地域活動の経験を活かし、鳥取県に対して政策提言を行っており、一から政策立案に携わった「若者地域活動マネジメント事業」は平成21年度に事業化がなされるなど、その行動範囲は多岐にわたっています。こうした活動は

全国からも評価され、昨年は、(社)日本青年会議所らが主催する「人間力大賞2009」において、会頭特別賞を受賞しました。

辻さんの視点を本格的に地域に向かわせたきっかけは、大学2年のときに参加した、本市主催の鳥取市若者会議という立場で会を取りまとめ、今日の活動の基礎を築きました。

コンプレックスをばねに

辻さんがもともと持ち続けていたもの、それは、都会へ

のコンプレックスでした。高校生のころは、とにかく都会へ出たかったです。

しかし、「なにもないただただ嘆くより地方だからこそできることを考えてみよう」と思い立ち、鳥取大学地域学部に入学します。地域学と出会うとともに、地域で活動する人々に出会うにつれていつしかコンプレックスはなくなっていくたと言います。

現在は「外から鳥取を見てみたい」との思いもあり大阪市立大学に進学しましたが、あくまでも都会は学問の場と割り切ります。「卒業後は必

ず鳥取に帰ってきます」ときっぱり。

輝く瞳の先に

講演終了後、数名の学生さんたちが辻さんのもとに駆け寄り、様々な質問をしていました。地元国府町出身という学生さんに、辻さんのようになりたいかどうか尋ねると、「なりたいです」と力強い答えが。辻さんもうれしそうに照れ笑い。

瞳を輝かせながら熱く語り合う二人の姿に、新たな可能性と鳥取の未来を感じました。